

日本の何処かで素晴らしい御来光を拝みながら新年を迎えられた方も沢山お見えになった事とお慶び申し上げます。昨年は日本を含め多くの地で災害がありました。暗い世相に灯る一筋の光明は御来光の如く深い感銘を我々にもたらす事でしょう。その光明とは被災者にとって物心両面の援助は勿論の事、近い将来に於ける生活の安定と一日も早い安心安全の復興であろうと思われれます。我々は光から暖かさ、明るさ、灯明や人間から出るオーラなどを想像します。光は人間にとって欠かす事の出来ないプラスの心的要素を持っています。三島由紀夫は中期の作『壺閣寺』の中で、もし人間がその精神の内側と肉体の内側を、薔薇の化弁のように、しなやかに翻へし、巻き返して、日光や五月の微風にさらすことができたとしたら云々」との人間としての願望をしたが、成就すること無く最後に主人公は金閣寺に火を放ってしまうのであります。仏教では火をもって浄化する作法があり、三島由紀夫氏も仏教に傾倒されていたのではないのでしょうか。私は護摩もその一種と考えています。光は明るさと同時に速さにおいても特別な存在でした。例えば新幹線が出来、速さの象徴として「ひかり号」が走り、現在は「のぞみ号」にその存在を譲りました。最近では「兜」より早いといわれる「ニュートリノ」が発見されたのも時代の流れでしょうか。

さて仏教に於ける光ですが、光明は呪文のように称える事でその力が發揮される様です。悩み多き我々を救済する為にです、一般的に良く知られている**攝益文** 天台宗では**觀經文**の**光明遍照十方世界念仏衆生撰取不捨**では**念仏を申す者は阿弥陀如来の光明で救われるとありますし、密教で称える真言には大日普門の満徳を二十三字に攝た**光明真言** オン アボキヤベイロシヤノウウン**があります。この**真言を称える事**により佛の光明に照らされて如意円満に成れるとの事です。このように仏教では、仏身より出る光、光明によって我々が救われる事に成っております。ほかに**般若心経秘鍵**には**蘇生**（そせい）の族ら途にたたずむ、夜変じて日光赫々たり」とあります。蘇生とは生き返ることであり、日光赫々たりとは太陽が赤く輝いている様子です。最勝根本大陀羅尼の説明でも**真言を称える者は**身より光明を放って、諸々の魔王を降伏し、所求の一切の事、持に随って成就することを得べし」と要するに**身を護り、恐怖を味わう事無く、常に安穩を得る事ができる**と言われています。檀信徒の皆様がこの一年を燦々と輝く光を浴び心身快樂に過ごされん事を祈念す。

二十四年一月一日

善壽界善入院油掛地藏尊